

新春特別レポ ▶▶▶ アテネ・フランセ探検! ▶▶▶

東京・水道橋駅から徒歩5分の場所にある語学学校「アテネ・フランセ」は、1913年から続く老舗のフランス語学校のひとつです。今号では、編集部がアテネを探検、授業見学もしてきました。新年を迎え、改めてフランス語を学んでみたい、フランス文化に興味がある方は必読です!



入門授業は 真剣かつユーモアたっぷり

編集部が見学したのは、「フランス語入門科」。フランス語ビギナーのための講座でした。授業スタートのブザーが鳴り、教室内でドキドキしながら先生を待つと、来ました! 長髪の素敵なムッシュが! ピピ・ダミアン先生です。

ピピ先生は、日本語が驚くほど堪能で、授業は日本語で進行。今回学んだのは、「Vous vous appelez comment? (お名前は何ですか?)」から、英語のbe動詞にあたる「être」の活用形の口頭テストまで、文法と会話、発音と様々なことを同時に学んでいる印象でした。

授業に来ていた学生さんは皆さん社会人らしく、6名。女性が多かったのですが、男性も1名いらっしゃいました。皆さん真剣な表情でノートを取ったり、発音したり。同じくフランス語初心者である編集部も見習いたいほど…。**たまに先生が、「英語はフランス語の子もだからネ～」とか「この言い方だと、ちょっとフランスではネガティブな言い方かな～」など、チラッと見せるフランス人らしい雰囲気やネイティブならではの会話のポイントは学生さんにとっては面白く、勉強になっている様子。**授業後に質問している学生さんもいて、やる気あるんだなあ…と尊敬の眼差しを向ける編集部でした。先生のユーモアセンスや、ネイティブの美しいフランス語に触れたのも、とっても良かったです!



アテネ・フランセには、入門科に始まり、初級～上級、文法や視聴覚クラスの他にも古典ギリシャ語やラテン語を学ぶコースなど多彩なコースが用意されています。

刺身が食べられる日本に感動?!

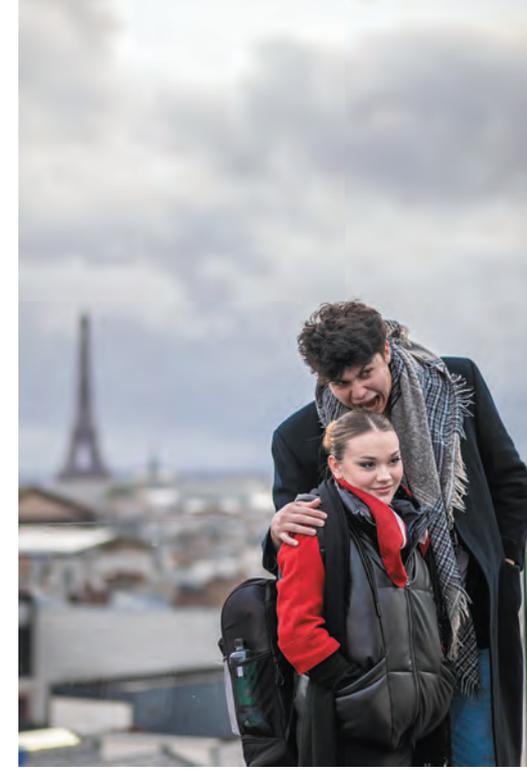
授業後にピピ先生にちょっと質問をさせていただきました。以下ミニインタビューです。

◆なぜ日本に?

元々語学が好きで、中学生の頃からスペイン語、英語、ドイツ語などを学んできたのですが、私の出身のポルドーには日本語を習えるところはありませんでした。大学でアルファベットではない言語を学びたくて、日本語を選び、その後留学生として来日したんです。そうしたら日本にひとめぼれ! フランスでは牡蠣以外食べられないのに生魚を食べられたり、ごはんが美味しいことも好きになった理由ではありますが、何といても人が優しいことに感動しました。残念ながら25年前と今では違う部分もありますが、昔は怪我をして電車に乗っていると乗客のみんなが心配して席を譲ってくれたんです。でも今はみんなスマホばかり見ていて譲ってくれるかどうか心配です(笑)。

◆アテネ・フランセの生徒さんはどうですか?

みんな真面目にやっていますよ! フランス語を学びたい日本人の中には、いろいろな人がいますが、料理、音楽、文学、映画に惹かれてくる人が多いですね。中でも料理関係者は必ずと言っていいほどいます。英語は便利だけれど、文化や歴史に興味があるのであれば、フランス語はおすすめしたい



Bonne Année! photo by Saori

言語ですね。

◆英語より、フランス語はかなり難しいと思うのですが…

そうですね。難しいところもあります。読み方が簡単なのはスペイン語とかかもしれない(笑)。でも、英語よりも日本語のほうがフランス語に近いところがあると思うんですよ。たとえば、数え方。「いっぱい、にほん、さんぼん」って発音の仕方が違いますよね。これはフランス語のリエゾンに近い。発音しやすい方向に言葉を変化させていくところが似ているなどと思います。

ピピ先生、日本のロックも好きそうですね。アテネ・フランセでは長く教えていらっしゃるので、フランス語を習ってみたい方、ぜひアテネの門をたたいてみてください!

アテネ・フランセのおすすめイベント

第27回コンクール・ド・ディクテ (Concours De Dictée) 開催予定!

アテネでは、毎年恒例となっているディクテ(書き取り)の大会がこの2月に開催される予定です [2/15(土) 中級・2/22(土) 上級]。ディクテとは講師が読み上げるテキストを書き取ることで、レベルは中級～上級まであり、受講生だけでなく一般の方も参加できるそうです。ご興味のある方はぜひ!

URL <https://athenee.jp/info/14515/>

毎週土曜日あさ9時30分から、テレビ朝日で放送。 tv asahi



食材ひとつに、多彩なドラマ。

毎週土曜日に放送中の「食彩の王国」は、身近な「食材」たちが主役。さまざまな食材が織りなす食文化の歴史や産地の風土…。そこに流れる時間をひも解くことで、人と食材のかかわりを探っていきます。

食彩の王国

語り 冨田九子

番組ホームページ www.tv-asahi.co.jp/syokusai

マダム愛の わたくし ミ♥ュラン

第132回

シェフのお眼鏡になかった食材のみで作る優しいお料理の店

エ ッフェル塔のお膝もと、Ecole Militaire駅から歩いてすぐの場所にあるレストラン「Milagro」は、一流レストランで腕を磨いたシェフが数年前に開いたレストラン。今では地元グルメなパリジャン達に支持を得て、ランチ時は予約必須の人気店です。

食材を見極めることから始まるこちらのお料理は、どれも食材そのものの味を活かした優しいお味の料理たち。その優しい味がカラダに染み渡るので。

この日頂いた前菜のセビーチェはぷりぷりとしたお魚と程よい酸味と辛味のあるソースにピツパリ。塩に頼らない味付けなのが伝わる上品なひと皿です。

もうひとつの前菜が、何と何と、まるっとニンジン！ シンプルな素材をひとつの豪華な前菜にしてしまうのはさすがプロだなと脱帽！ 絶妙な火入れのおかげで本来の旨味と甘味がたっぷりと感じられご馳走になっていました。

お肉料理も焼き方は至ってシンプルだけれど

も、それがまた良い。お肉がやわらかくしっとりしていて、良いもの食べているな〜と心で感じられるのです。

デザートはけっこうしっかりとしたクリーミーなものが出てくるけれど、甘過ぎずさっぱりとしたお味なので締めめにピッタリ。フルーツをたっぷり使用することも多く、万人が愛する味だと思います。コッテリフレンチに胃が疲れてしまっている時や、重い料理は苦手な方は絶対に覚えておいて損のないレストランなのではないでしょうか。特に夜に比べるとランチメニューはかなりリーズナブルなのでおすすめですよ。

- A. 玉ねぎの辛味が少しだけピリッと効いたセビーチェ。鯛のお刺身をさっぱりと頂ける新しい感覚です。
- B. 誰が何と言おうが“人参”そのもの！ 前菜。これがね、とにかく甘い！ フムスと頂くとさらに美味しさが際立ちます。
- C. ここのメインはいつもシンプル。抜群の火入れのメインに付け合わせのピュレ。これが美味しいんだな。
- D. デザートはいつもフルーツとクリームのコラボで私の好みと真ん中。甘過ぎないのが良い。



D

今月のハート

料理 ♥♥♥♥♥
ドリンク ♥♥♥♥♥
サービス ♥♥♥♥♥
雰囲気 ♥♥♥♥♥
コスバ ♥♥♥♥♥

Milagro

8 Avenue Bosquet 75007 Paris d'Auvergne, 75009 Paris
09 54 50 83 31
<https://www.milagroparis>

writer **マダム愛**

東京で知り合った仏人男性に連れ去られ、気が付けばパリジェンヌとやらに。パリのレストランと生活、2つのブログを書いています。

blog **マダム愛の徒然パリ日記**
<http://www.paris777.blog.fc2.com/>

blog **マダム愛のアパートの鍵貸します**
<https://www.madameai.com/>

2025 フランスイベント情報

今年も楽しいイベントが盛りだくさん！ 参加してみたいイベントがあったら、ぜひ足を運んでみてください！

Province / 1

Cezanne 2025

セザンヌイヤー 2025
画家セザンヌの故郷であるエクス・アン・プロヴァンスでは2025年をセザンヌイヤーとして、一大イベントを開催予定。2025年春、セザンヌの旧居とアトリエが再オープン、グラネ美術館では大回顧展「ジャズ・ド・ブファンのセザンヌ」も開催予定（2025年6月〜）。

Lyon / 2

Le Lyon /treet Food Festival

ストリートフードフェスティバル
食通の街リヨンのストリートフードフェス
入場料：10€、子供（8〜14歳）：5€。5歳以下無料、飲食代は別途有料

日程 2025年6月25日〜29日

場所 Quai Pierre-Sémart Rue Gabriel-Péri - 69350 La Mulatière

Lyon / 3

Les Eurogames Lyon 2025

ユーロゲームス2025
リヨンで初めて行われる欧州スポーツの祭典
39の競技、4000人のアスリートが欧州から集合！

日程 2025年7月23日〜26日

Fontainebleau / 4

Festival Django Reinhardt

ジャンゴ・ラインハルト フェスティバル
フォンテーヌブローで行われるジャズフェスティバル。イベント名になっているDiango Reinhardtは仏人ジャズギタリスト。

日程 2025年6月26日〜29日

Strasbourg / 5

Exposition Antoine St-Exupéry, le Petit-Prince parmi les hommes

サンテグジュペリ・星の王子様展
『星の王子様』の世界をめぐる旅と、その作者サンテグジュペリの生き方を知る展覧会です。

日程 2024年10月18日〜2025年5月4日

場所 HALL 5 - Parc des Expositions Avenue Herrenschmidt 67000 Strasbourg

とびこめ! ミュゼのとびら

今更聞けないフレンチアート

日常を優しく見つめるまなざし ノルウェーのある女性画家の視点

天 井まで届く本棚、アンティーク調の木製の家具でしつらえられた室内。窓から優しく降り注ぐ光。書棚の本はその光に照らされ豊かな色彩を放っています。窓の外を眺めながらここで一日中本を読んでいたい、そう思わせる一枚です。

作者は19世紀ノルウェーの女流画家、ハリエット・バックル。1845年裕福な家庭に生まれ、幼い時から芸術に親しむ環境で育ちました。妹はリストにも師事したピアニスト。彼女の演奏活動に同行してヨーロッパ各国を旅し、その時に美術館を訪れ巨匠たちの作品に触れる機会も得ました。

当時ヨーロッパのアカデミーは男子のみだったため、ハリエットはミュンヘンに出て、女性のため

Thorvald Boeckの書齋

ハリエット・バックル
オスロ国立美術館

のクラスや個人指導を受けることを決意します。29歳と画家としては遅めのスタートでした。その後パリに渡り10年間過ごします。印象派たちとの交流もあったそうで、彼らからインスピレーションを受けたことは言うには及ばないでしょう。パリのサロンにも認められ、Mention honorableという名誉な賞を受賞します。これはプロの画家としての道を歩む上で重要なステップでした。

のちに彼女は言っています。[I think I serve the cause of women best by concentrating like a man] (私は男性のように集中することで、女性のために最善を尽くしていると思います)。言葉よりも行動で道を切り開き、実力で勝負してきた彼女ならではの言葉です。

その彼女の頭の中に常にあったのは、室内と屋外の光の違いをどう描くか、ランプの光と自然光では色がどう見えるかという問題でした。豊かな

色彩を持つ室内描写のこの絵は、そんな彼女の試行錯誤から生まれたのです。



*「ハリエット・バックル：色彩の音楽」展 オルセー美術館にて 2025年1月12日まで

writer 妹尾優子

仏語教師の傍、仏文学朗読ラジオ「Lecture de l'après-midi」の構成とナレーションを担当。美術史 & 日本史ラブ。日仏の文学からアートまで深堀りする日々。

HP <https://note.com/tabichajikan/md750819c9b67>



仏人添乗員リラの 日本リラ散歩

時間に縛られず

み なさん、bonne année! これを書いているタイミングではまだ12月だが、秋から年末にかけて充実した時間を過ごすことができ、2025年をいい気分を迎えられそうだ。数ヶ



11年ぶりに兼六園を散歩

月前にもっと東京の文化施設を楽しみたいと語って以来、様々なアート展に行ってきたインスピレーションを受けた。音楽の面でも初めて東京ドームでライブを楽しんだほか、スポーツに関してはスケートボード大会を見に行き、出場していたオリンピック選手の活躍を身近で見られた。そして11年ぶりに旅行で金沢を訪ねたり、10年前に留学で通っていた大学のホームカミングデーのイベントにも行ったり。様々な角度から過去を振り返る機会が多くなって、必然的に時の流れを強く感じた数ヶ月間だった。

年を重ねるにつれて1年間があっという間に過ぎていく、多くの人が共感できる感覚だが、その現象はフランスの哲学者であるポール・ジャナーに由来がある「ジャナーの法則」と呼ばれていることを最近知った。他にも、子どもの頃は新しい経験がたくさんあるのに対して、大人になっていくと日常に変化が少なく過ぎていく時間が似た出来事の繰り返しであることから早く感じるという説明もある。そのため、何歳になっても定期的に新しいことに挑戦したり、スキルを身につけた

り、旅行などで刺激を受けたりすることで、時間の経過の感じ方を変えることができるという。

2021年に、15人のボランティアが南仏にある自然光や時計もない洞窟の中で40日間を過ごす「ディープタイム」という名の実験が行われた。時間を測ることも計ることもできない環境では人間にどんな変化や影響があるのか、どうやってうまく共同生活ができるのかが研究されたそうだ。様々な興味深い結果が出ており、ここまで極端な環境ではなくても自分も試してみたいかと思った。年々早く過ぎていく時間にとらわれず、2025年も新しい発見でいっぱいになりますように〜。



writer リラ

東京で翻訳者としても活躍する30歳のフランス人女子。持続可能な社会の実現に向けての活動もする。趣味は編み物とペランダの植物の世話。

トモクンの アレコレ、パリコレ、ナンザコレ〜

一戸建てだけでなく、アパートマンだって危険!
押し入り強盗頻発のパリ

財 政赤字のせいで、国債の格付けランクが下がってしまったフランス。一方の日本も不安要素が山積みで、似たり寄ったりかもしれません。両国とも綱渡り状態で、ギリギリ先進国の仲間に入れてもらっている感じでしょうか。そんな相似形を描く日仏だけれど、不思議と治安問題でも近い状況です。

日本では、悪知恵の働く人が募集を掛け、あちらこちらで強盗事件が発生していますが、不景気こそが弱者を犯罪に追い込んでいるのかもしれない。それはフランスも一緒に、治安は悪化する一方。強盗事件が頻発しています。日本人として初めてパリでミシュランの3ツ星を獲得したシェフの奥様が、シェフの出張中に宅配業者を装った押し入り強盗に遭った事件は記憶に新しく。

パリの東急ハンズとも言われるデパート、BHVへ行ってみたところ、人が通ると自動点灯する入り口灯のコーナーのスペースが急に大きくなっていてビックリ。そういえば、今年の夏過ぎに僕の住むアパートの階段スペースの電灯が、ドアを開けた瞬間に自動点灯するようになったのですが、白昼でも点いてしまうため、当初は光熱費の無駄と思っていたのだけれど、ここに来て防犯の意味があったことに気付いたのでした。

そんな中、郵便受けに警察署からこんなもの(右写真)が投函されていました。この種のかめしい文面を目にすると、反射的に滞在許可証の更新を思い出して苦々しい気分になるのですが、全然違いました。僕の住むパリ6区で押し入り強盗が頻発しているため、いかに防ぐかについてのセミナーのおしらせ。警察の防犯部門の責任者と6区の区長が主催です。強盗の手段と手順を学び、犯罪発生を抑えることが最重要課題と訴え、多くの区民の参加を呼びかけています。残念ながら、その2日前に日本へ向けて発ってしまったので、出席できなかったのだけれど。全く

他人事ではないので、次回、こんな催し物がありタイミングが合ったら、参加を真剣に検討したいと思います〜。



writer トモクン

トモクンという名の45歳。在仏27年。ファッションジャーナリスト(業歴17年)は仮の姿で、本当はただの廃品回収業(業歴5年)。詳しくはブログ『友くんのパリ蚤の市散歩』にて。

blog 友くんのパリ蚤の市散歩
<http://tomos.exblog.jp>



パリジェンヌからニューヨークカーへ
アラフォー女・怒濤の365日戦争

第10回

ニューヨーク、
生のツリーを地下鉄で運ぶの巻

12月に入ると街で生のツリーが売られるようになりました。そうか、この街もパリと一緒に人工ツリーではなく、生の木を飾るのか。我が家の前のツリー売りに値段を聞いたら、「200ドルからは絶対に下げない」と強気。お店の人に「他のところはもっと安いと聞いた」と言うと「ウチの木は、先週切ったばかり。安い木は10月に切っているから活きが悪いの」確かめる術がない……。高すぎてここは断念して取材を重ね、少し遠めのスーパー、ホールフーズでなんと69ドルで売られていることが発覚。地下鉄で行けば15分弱。持ち帰れるのか。とりあえず行ってお店の人に相談しよう!

家族を引き連れスーパーに向かう道すがら、二人でツリーを運ぶ夫婦の姿が。白雪姫の小人みたいにエッサエッサと楽しそう。あれをやるのね〜。お店に到着するとパスト相撲みたいに網でギューとなった大量のツリーと、物色する多数の客。あるファミリーはキャンプ用具を運ぶカートを持ってきています。普通は歩いて来れる人が買いに来るんだよねと不安が募ります。「小さいのを買って持って帰りたい」とお店の人に伝えると「背の高さは全部一律。6〜7フィート。」へえ……って182センチから213センチ! 部屋の天井までの高さそんなにあった?? 最悪家で伐採である。しかし、69ドルは魅力的。ここで決める!

肝心のツリー選びですが、初心者は何が良くて何が悪いのかさっぱりわからん。お店のお兄さんがおススメを二種類出してくれたけど違いがわからん。伐採時期も確認しなければ。「この木、いつ切られたの?」「知らない。俺、売ってるだけだし」この人のお勧めで買っていたいのか。一向に期待する答えを得られないまま暗くなってきたので、勧められた形が三角っぽいツリーをゲットしました。

ビニールで根元を軽く包んだ状態でぱっと渡してきて受け取ったら、無茶苦茶に重い。金太郎って

スゴイ! 縦持ちは無理なので大人2人が前後に別れて運ぶことに。重すぎて、駅までの10分が永遠のように。安室ちゃん、永遠って言う言葉、そろそろ覚えた? 重すぎて、木を抱えて地下鉄乗ったらマズいかな、など考える余裕もなし。早く家に着きたい一心で、地下鉄の入り口へ向かったものの、回転バー式の改札が抜けられそうにない。子どもたちがオロオロしているのを見た、駅のお兄さんが、「早くこっちのドアに来い!」と手を伸ばして非常ドアをオープン。リポビタンDのCMみたいな緊張感です。白雪姫の小人さんたちが軽々木を運んでいたような気がしたのだけど、よく考えたらあの人たちが運んでいるのは木じゃなくて、ピッケルだった……。なんとか地下鉄に乗せるも、背が高すぎて斜めにしないと乗せられないので、傾けて支える姿勢。金八先生、私今ニューヨークで漢字の「人」をやっています。支える相手、木だけ。明るい車内で気づいたのは、若旦那の頭に葉っぱがたくさんついていることと、今日初めて着た新しいコートがとんでもなく汚れていること。木は思っていたより重くて汚い。自分の無知にガッカリです。家に着いたらあらかじめ買っておいた水を入れられるツリースタンドに木を立て、ねじで止め、網を取ったらバサバサ〜! 床一面葉っぱ。もう枯れはじめ……? 案の定背が高すぎて、てっぺんが天井に刺さってグニャっとなって星もグニャって頭を垂れています。切る元気なし。来年は近所の200ドルを買ってしまうかもしれない。

writer 吉野亜衣子

ラジオ局を辞め、夫の留学についてパリへ。帰国後、日仏文化交流のための NOISSETTE を設立。2022年で設立10周年。2024年春よりNY在住。

HP <https://note.com/noisettepress>

podcast <https://podcasters.spotify.com/pod/show/cafenoisette>

スイーツア・ラ・モード

私を通り過ぎたお菓子たち

美味しいグルテンフリーのスイーツパン

健康を考えて小麦粉の摂取量を減らす生活をする人が私の周りにも増えてきました。厳しく生活をコントロールしているわけではなくてできる時に無理のない範囲で楽しくグルテンフリーを取り入れているという友達が多いけれどスイーツ好きな私にとって脱小麦粉は、美味しいスイーツを諦めるとイコールだったので、なかなか実践できない健康ルールでした。ところが! 友達にプレゼントしてもらった米粉クッキーがとっても美味しくてびっくり…硬いだけだった少し前の健康志向クッキーとは全然違う。美味しいから食べたい〜と思うものでした☆これは美味しいグルテンフリースイーツがあるに違いないと数軒回って気に入ったお店がシャンペランです!

米粉パンも食事に合うものからスイーツ系まで豊富なラインナップ! 一番のお気に入りにはフランと棒状のパン・ドゥ・シュクル! ぜひ一度お試しあれ〜。



Chambelland Oberkampf
14 Rue Ternaux, 75011 Paris ★サクサクのタルト生地と滑らかなカスタードが美味しい「フラン」5€ / 店内&テラス席があるので散歩の休憩スポットにも◎



「パン・ドゥ・シュクル・オレンジ・ショコラ」3.40€ ★私にはひと口大の6等分にして紅茶といただくのが大好き! むっちりとした口当たりがカヌレのようなスイーツパンです。

writer おむすび

1年だけの語学留学のつもりが…水が合ったのか!? そのままだけにパリジェンヌに。ガイド歴10年以上。キラキラだけじゃないパリの親しみあるリアルをご案内中。

Instagram @OMUSUBI_Food_Paris

photo by omusubi



▲天井につかえている。

◀地下鉄ツリーはさほど珍しいくないのが、ニューヨークカーチア見のみ。

Parisに住んだ気になるノアゼットプレス公式podcast

Cafe Noisette

ノアゼットプレス編集長 Alko Yoshino
ファッションジャーナリスト Tomoaki Shimizu

読んでみたらこんなだった!

カフェノアゼット

Athénée Français depuis 1913
2025年に創立112周年を迎えました

冬学期 開講期間 2025年1月7日〜3月31日
途中入学も可能です

フランス語 英語 古典ギリシャ語 ラテン語

アテネ・フランセ
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-11
03-3291-3391 <https://athenee.jp/>
JR御茶ノ水駅より徒歩7分 または 水道橋駅より徒歩5分
東京メトロ神保町駅より徒歩9分

大好評発売中!

英語だって日本語みたいに楽しくしゃべりたい

リアルライフ英会話 for Women

TAS & コンサルティング <http://www.jp-tas.com>

ノアゼット Noisette Press

À bientôt!

発行元: ノアゼット東京オフィス <http://www.noisette-press.net/>
編集発行人: 吉野亜衣子 編集: 小橋 桜子
デザイン: 藤原結花 (yap)